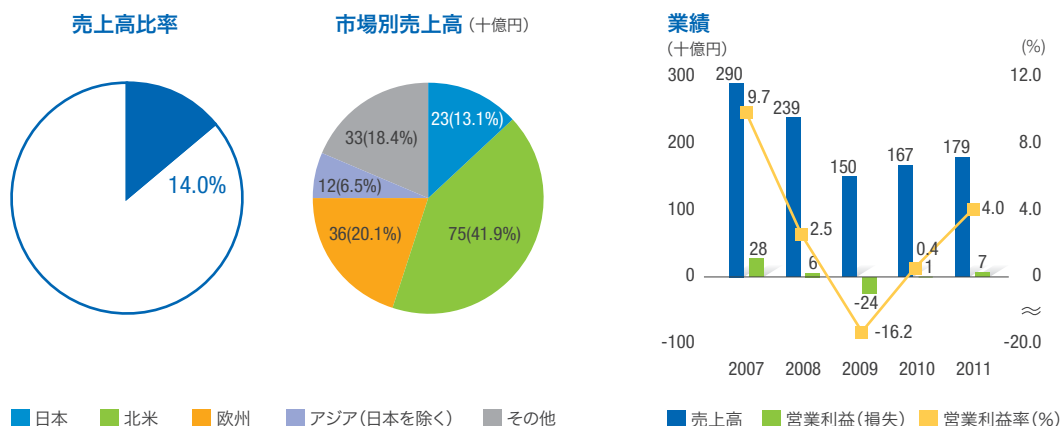


マリン事業

2011年度のマリン事業の売上高は、前年度比118億円(7.1%)増の1,789億円となり、全体の売上高の14.0%を占めました。また、営業利益は同63億円(846.1%)増の71億円となりました。



船外機事業

新興国市場を中心に販売拡大

2011年度の船外機総需要は、ロシア、中南米、アジアなどの新興国市場を中心に市場全体で減少傾向に歯止めがかかり、前年度比4.0%増の71.8万台となりました。

当社におきましても、前年度に引き続き商品力の強化に努め、新興国市場においては富裕層向けの展開を中心に、先進国市場においてはボートビルダーとの提携戦略を推進し、積極的な拡販に努めました。その結果、エントリーボート、ファミリーボートの販売回復により、『F115』『F150』などの軽量高出力モデルが好調に推移し、拡大する中南米・ロシア・アジアでの需要と回復基調にある米国需要、日本における復興需要に支えられ順調に出荷を伸ばしました。これにより、2011年度の当社販売台数は前年度比11.4%増の30.3万台、売上高は同7.3%増の1,099億円となりました。

2012年度もロシア、中南米を中心とした新興国市場が牽引し、船外機総需要は前年度比3.1%増の74.0万台と想定しています。当社では、軽量・コンパクト・低燃費・クリーンといった当社製品の強みを活かし、ポルポ・ペンタ社との技術提携を通じて商品競争力を一層強化します。また、ボートビルダーとの連携も強化し、リギングやプロペラなどの関連部品の拡販にも取り組むことで、前年度比6.0%増の32.1万台の販売を計画しています。経済の先行きが不透明な欧州と復興需要の落ち着いた日本以外の全地域での販売拡大に取り組むことにより、「ゆるぎない世界シェアNo.1」としてのポジションを不動のものとしていきます。



F150

ウォータービークル事業 在庫適正化が奏功

2011年度のウォータービークル(水上オートバイ)市場は、国内、欧州では低迷したものの、中南米を中心に需要が拡大し、総需要は前年度比9.0%増の7.3万台となりました。

当社でも震災により生産が影響を受けたものの、2010年度に推進した在庫の適正化が奏功し、米国での需要の回復や、新興国専用モデル『VX700』の拡販に成功するなど、全ての展開市場で販売が好調に推移しました。その結果、2011年度の販売台数は前年度比19.0%増の2.9万台に、売上高も同20.5%増の288億円となりました。

2012年度の総需要は、新興国の市場開拓が進み、需要拡大が継続することから、前年度比9.6%増の8.0万台となる見通しです。当社では、ニューモデル『VXR』『VXS』と競合他社が撤退したスタンディング・モデル『SJ700』を中心に積極的な拡販を推進し、2012年度の販売台数は前年度比33.3%増の3.9万台を目指します。



VXR

国内舟艇事業 復興需要で和船が大幅に拡大

2011年度の日本国内の舟艇需要は、東日本大震災の復興需要で和船、漁船の需要が大幅に拡大し、プレジャーボートを含めた国内舟艇全体では前年度比48.2%増の3,446隻となりました。

当社におきましても、震災発生以降の早期復興支援対策に対応して、和船出荷数は前年度比669.4%増の1,308隻と大きく伸ばしています。また、プレジャーボート市場においても、需要活性化のために市場投入した戦略モデル『SR-X』、ベストセラー『YF-23』の後継モデル『YF-24』が好調に推移し、2011年度の国内舟艇販売隻数は前年度比160.5%増の1,865隻に、売上高も同14.3%増の76億円となりました。



YF-24

2012年度も、国策によって復興需要が継続し、和船の出荷数がピークを迎えることから、国内舟艇総需要は前年度比52.9%増の5,268隻と見込んでいます。当社では、被災地漁業復興へ向けて増産体制を確立し、2012年の和船出荷数は前年度比93.6%増の2,532隻を計画。また、プレジャーボート市場にもグローバル展開モデル『NYTRO(ナイトロ)』を5月から発売するなど、2012年度の国内舟艇販売隻数は前年度比71.8%増の3,205隻を目指します。